

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	その人らしさを支える看護実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2～3年		学期及び曜時限	前期	教室名	実習施設
担 当 教 員	中村 裕子	実務経験と その関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》						
健康障害を有する成人期・老年期にある対象およびその家族を総合的に理解し、尊重しながら対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を習得する。対象の疾患や障害についてアセスメントし、疾患の経過や発達段階、対象がどのように疾患を抱えながら生活したいのか本人・家族の意思も尊重しながら看護過程を展開する。						
《成績評価の方法と基準》						
実習態度、出席状況、学習内容、コミュニケーション、看護技術等により総合的に判断する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
成人看護学概論、成人看護学各論、実践看護アセスメント、副読本 老年看護学概論、老年看護・病態・疾患論						
《授業外における学習方法》						
実習オリエンテーション(①実習ガイド説明 ②実習要項・目標達成シートについて ③実習マナー ④カンファレンス運営について⑤病態関連図、看護計画について ⑥実習グループ別GW ⑦目標達成シートの助言⑧看護技術練習)を実施し、実習準備をする実習後は、実習の学びをまとめる。						
《履修に当たっての留意点》						
実習要項を熟読し、必要な事前学習をして臨む。バイタルサイン測定、清潔・食事・排泄・移動援助など基本的な看護技術についても自己演習し復習しておく。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	病棟のオリエンテーションを受け、病棟の概要や役割について知る。受け持ち患者に挨拶し尊重した態度でコミュニケーションがとれる。	所持している教科書・参考書	実習要項を読み、この実習で何を学ぶのか、また、どのようなことが学べるのかをイメージする。 目標達成シートの記載 ふりかえりが必要な場面はリフレクションを行う	
		各コマにおける授業予定	病棟のオリエンテーションを受ける。受け持ち患者の決定 受け持ち患者・家族への挨拶、コミュニケーション、情報収集。			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 受け持ち患者の日常生活援助の見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、清潔・排泄・食事援助など)	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 受け持ち患者の日常生活援助の見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、清潔・排泄・食事援助など)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象者とのかかわりを通して年齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴や疾患、行っている治療などについて把握できる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 バイタルサイン測定、環境整備の実施 受け持ち患者の日常生活援助の見学、実施(清潔・排泄・食事援助など)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、年齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえた看護計画が立案、実施できる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、年齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえた看護計画が立案、実施できる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のバイタルサイン測定とアセスメント、報告ができ日常生活援助の計画を行う。療養環境を整えることができる。	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定	前半の実習で経験したことや体験したことをカンファレンスで話し合い、意見交換をする。中間自己評価を行い振り返り、後半の課題を見出す。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえ た看護計画が立案、実施、修正ができる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習 中間評価
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のバイタルサイン測定と日常生活援助の計画・実施・評価を行う。病態関連図の作成ができる。	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者に関わっている多職種の連携や必要とする社会資源について確認する。 立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえ た看護計画が立案、実施、修正ができる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス で、ビジョン・ゴールに対しての成果・評価の発表を行う。グループメンバーでの学びの共有ができる。また、今後の自己の課題をみつけることができる。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	リフレクションにより自己の実践を振り返り、意味を見出して次の実践に活かすことができる(学内)。	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定	自己の実践をふりかえり、実践に潜む価値や意味を見出し、それを次の実践に活かすことによりさらに状況にあった意図的な実践を行うためのプロセスとしてリフレクティブな臨床判断能力の高い看護実践者になるためのリフレクションを体験していく		